

地域の子供たちを中心とした保全

しぎの や ち ち く かつせい かきょうぎかい
山形県： 嶋谷地地区活性化協議会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

地域の子ども達に身近な生きものの存在とそれらを大切にしている優しい気持ちを教えること

【経緯】

行政機関の生きもの調査の際、地域の子どもたちが中心となって小倉の自然を観察する活動『われらが探検隊』を行ったことから始まった。



われらが探検隊の様子

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】水路、生態系保全池

【活用した事業等】県営農地環境整備事業嶋谷地地区

【保全対象生物】ホトケドジョウ、イワナ、カキツバタ等

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 小倉の自然を観察する活動『われらが探検隊』

①自然観察会

- ・地域の子どもたちが中心となり、「地域の身近な生きものを知り、大切にしている優しい気持ちを育む」ために、関係機関や専門家の指導のもと、毎回テーマを決めて小倉の自然を観察する活動『われらが探検隊』を実施（約20人前後）

②観察後の発表会（勉強会）の開催

- ・観察後に、みんなで公民館に集まり、生きものマップ作りなどを実施した。

2. 生物保全施設の維持管理

①水路の草刈りや清掃

- ・イワナ水路（石積み水路）隣接は年3回ほど実施
- ・その他の水路等に関しては農業者（耕作者）全ての出役で年3回前後の活動を展開



ホトケドジョウ水路



ワークショップ風景

○継続した活動でこんな効果が！！



生きものに配慮した保全地と水路

■様々な活動への展開

・活動を継続することで、近隣小学校からの生きもの調査への参加要望や生きものの放流活動、ホタルプロジェクトなど、たくさんの活動へ展開することにつながった。

■生物の個体数の増加

・羽化するホタルの数が増える等生きものの個体数が増加している。

○課題・苦労した点

■保全活動のPR活動

・生きもの調査への参加者をどのように集めるかが課題であった。

■地域住民の意向把握

・保全対策の立案には、地域住民の意向を反映させることと、分かりやすい保全効果が重要である。

○工夫した点

■外部機関への依頼

・自然環境研究センターにてキャラクターを作成した。また、パンフレットを周辺の旅館等に配布し、PRを行っている。

■住民の環境への関心度調査

・地域住民に生きものや地域環境について聞き取り調査を行い、農業との関わりを把握するとともに、保全活動に対する意向を確認し、計画に反映させた。

○活動の特徴！！

■保全活動を地域住民へバトンタッチ

・環境配慮施設の維持管理や生きもの調査等の活動は、当協議会から地元の農家(土地改良区関係者)などが主体となって実施するように移行している。



○団体の概要は？

- ・平成13年度に設立され、活動エリアは山形県上山市大字小倉地区(旧中川村辺り)である。
- ・役員数が13名で、地元住民を中心に活動。

